

これまでの主な検討内容

参考資料

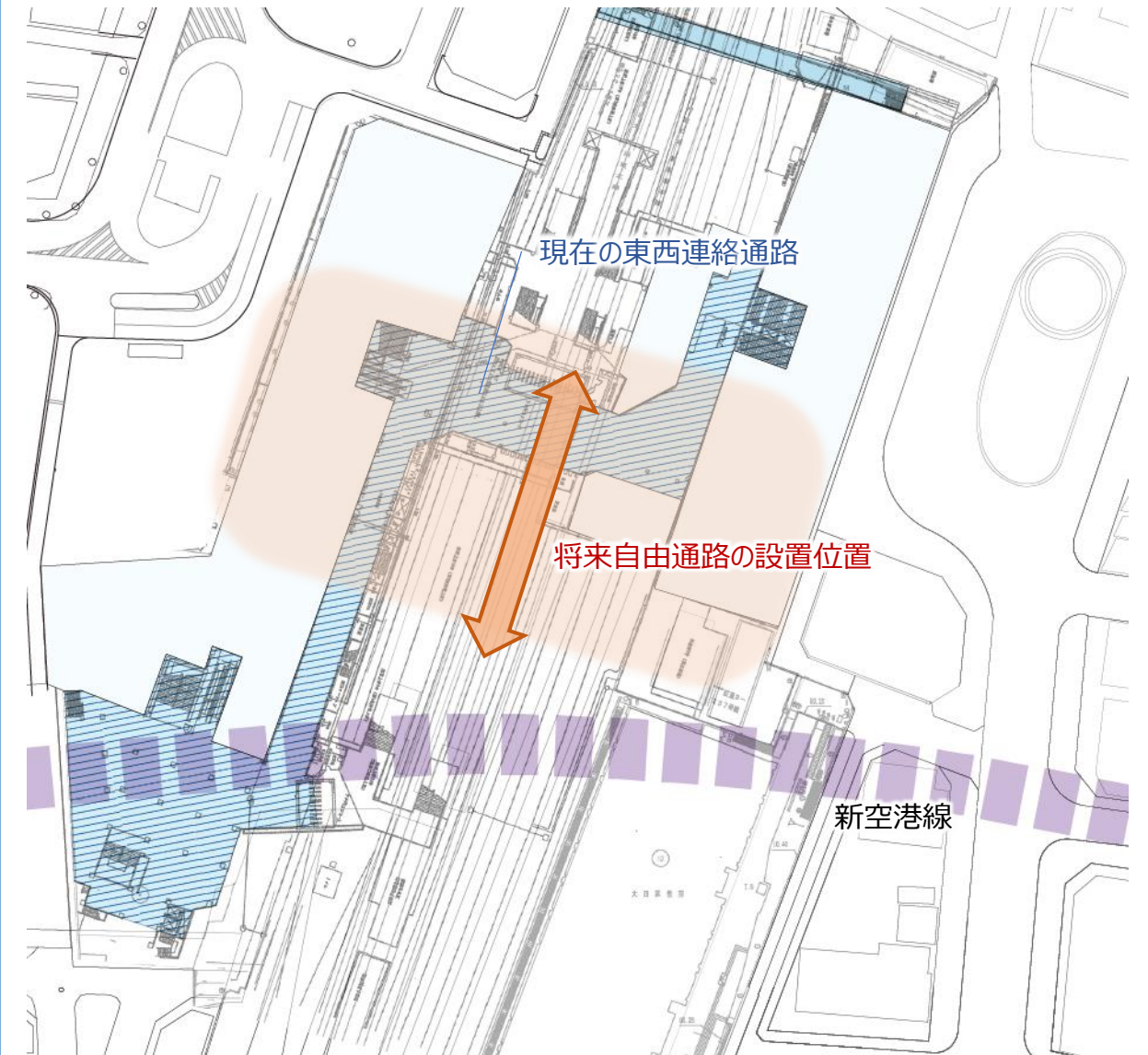
# 1. 東西自由通路の検討

## ■ 現状と課題

- 駅利用者の増加により東西連絡通路が混雑し、またクランク形状の動線によりスムーズなまちへの流動を阻害している。
- 東急改札側と東口南側双方からのアクセス性や、鉄道相互の乗換利便性を向上させる必要がある。
- 東西間の人の流れに対応した、駅北側における歩行者動線の確保が必要。
- 周辺再開発と連携した歩行者動線の確保や、将来需要を見据えた配置と十分な幅員を確保した整備が必要。
- 災害時等における東西間の安全な避難経路としての機能を有し、地区の防災性の向上が必要。



## ■ 整備の方向性



- ✓ 既存東西連絡通路を機能継続しながら整備できる位置とする。
- ✓ 将来需要を見据えた十分な幅員を確保する。
- ✓ 24時間常時開放とし、災害時における避難経路とするなど、地区の防災性の向上に資する運用を検討する。
- ✓ 駅北側の歩行者流動に対する動線を確保し、駅前空間の回遊性を高める。
- ✓ 鉄道相互におけるさらなる乗換え利便性の向上を検討する。

## 2. 駅前広場の検討

### ■ 現状と課題

#### 【東口、西口共通】

- 駅周辺に分散しているバス・タクシー乗降場などの交通施設を再配置し、駅利用者のシームレスな乗換え利便性向上や交通結節機能を強化する必要がある。

#### 【東口】

- 駅前広場内を一般車両が通過するなど、広場内の安全性を確保する必要がある。
- 駅や自由通路とまちを結ぶ円滑な歩行者動線を確保する必要がある。

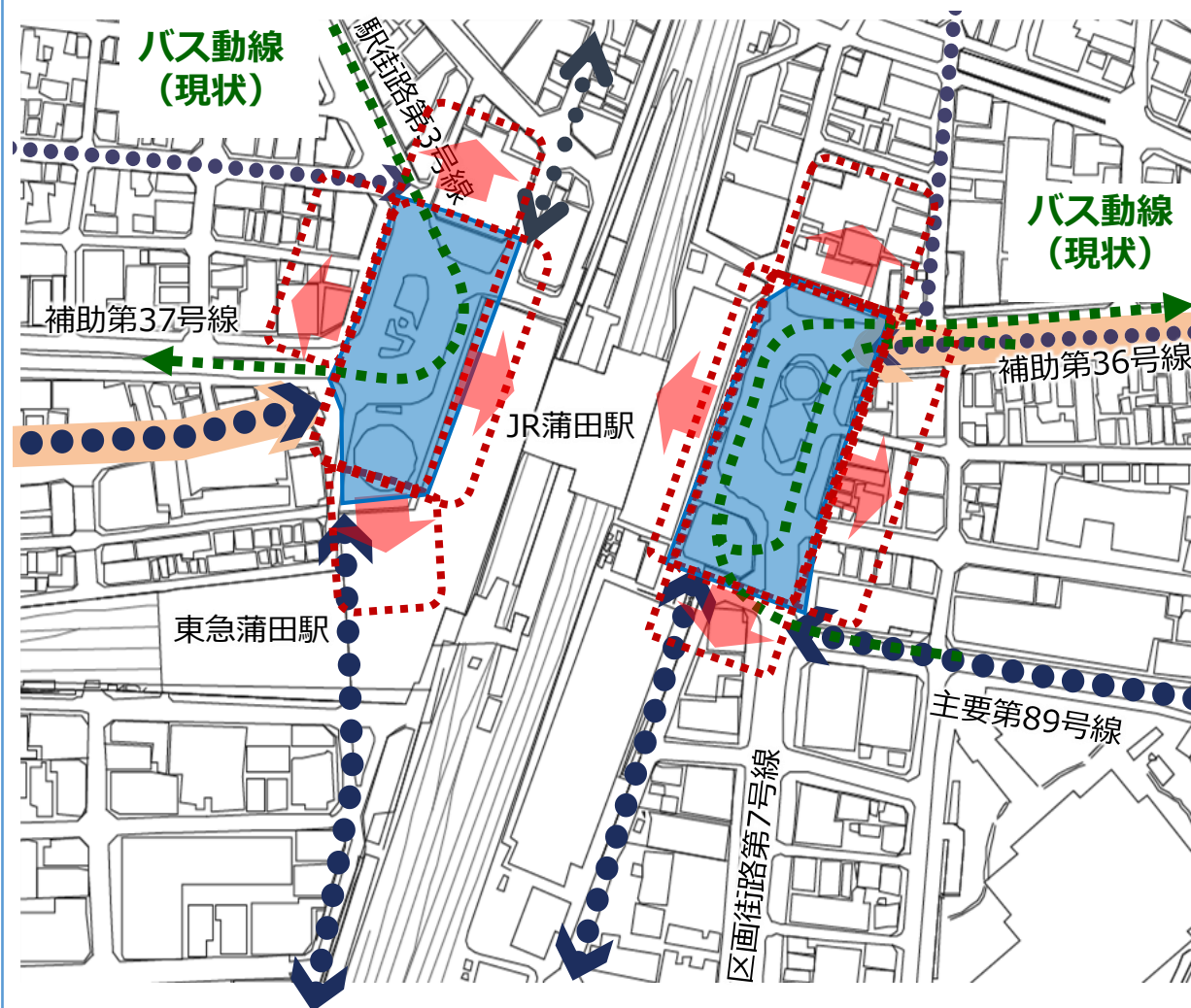
#### 【西口】

- 新空港線を踏まえた交通結節空間などを確保する必要がある。
- 歩行者の多い南口方面の歩行者動線を確保し、南側への回遊性を高める必要がある。



### ■ 整備の方向性

東口、西口ともに、交通施設の集約、安全な歩行者空間の確保、将来需要への対応などにより、駅前広場の拡張を検討する。

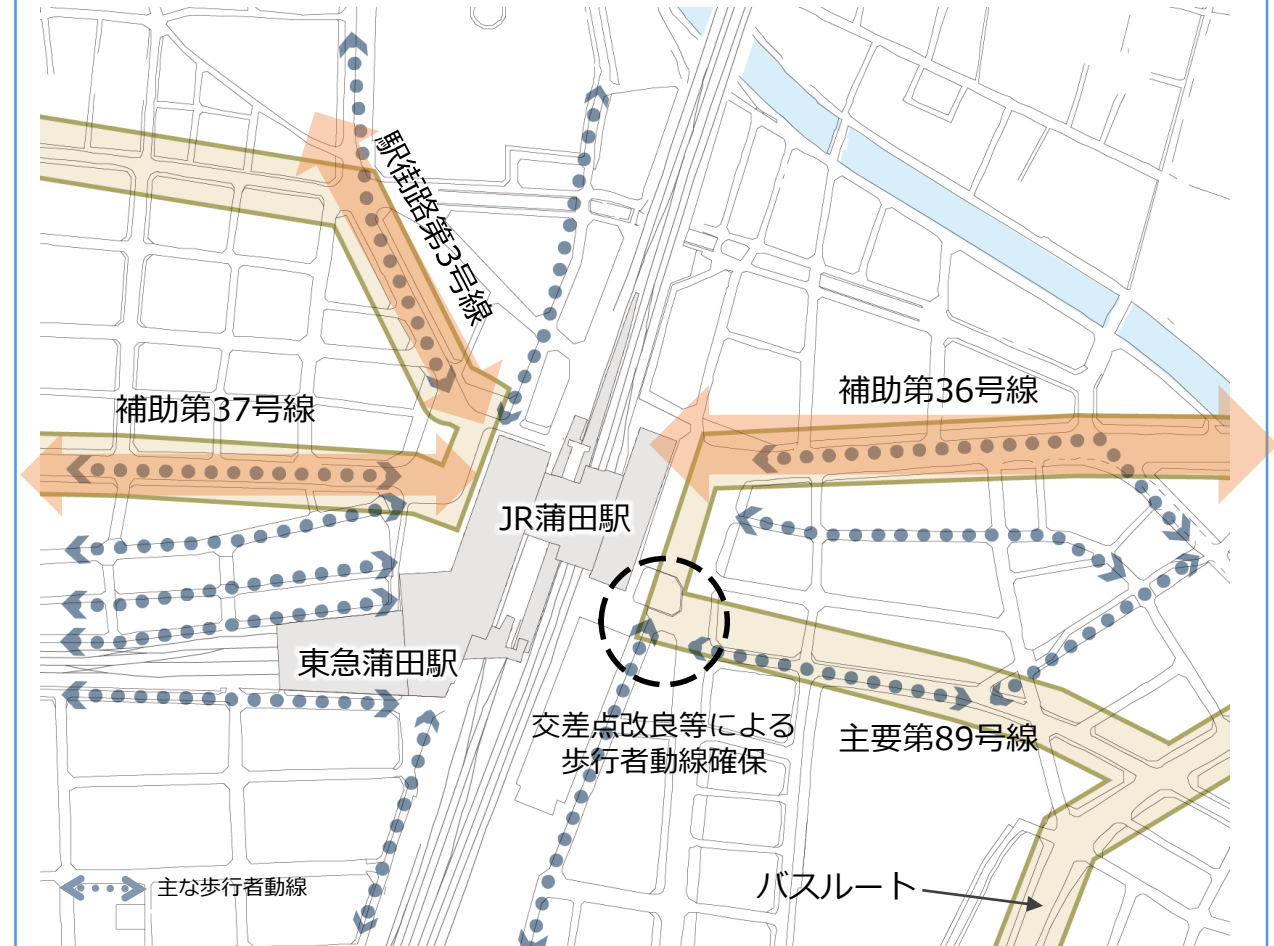


## ■ 現状と課題

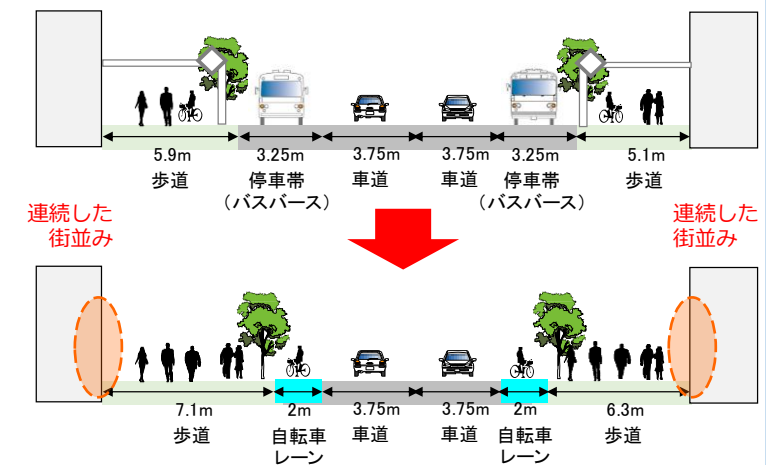
- 分散しているバス乗降場により、バス待ちの人と歩行者が錯綜し歩道空間が混雑している。
- バリアフリーへの対応など、安全性、快適性に配慮した歩行者空間を確保することが必要。
- 歩車分離など、安全で快適な歩行者・自転車ネットワークを形成し、地区内の回遊性を高めることが重要である。



## ■ 整備の方向性



- バス乗降場の駅前広場への集約により、空いた停車帯を自転車・歩行者空間に活用する。
- 車両出入による分断や壁面位置や1階の用途など街並みの連続性に配慮した誘導を行い、安全で快適な歩行者空間を創出する。



道路空間の活用イメージ